

ベビイ春号届きました。
無料頒布中です、どうぞ。

アニメール H12-3 号:加治木動物病院

今月の顔・わん

診療室の会話

前略、だんだん温かくなってきましたね。寒い冬ももう終わり。もう少したつと新緑まぶしい季節になります。あちこちの花壇で花が咲きはじめ散歩道も楽しさ倍増でしょう。

動物たちも行動的になる季節です。出来るだけ時間を作って散歩に出かけてあげてください。きっと楽しく元気にはしゃいでくれますよ。

しかし、動物が行動的になる季節は病気、ケガ、そして交通事故が増加する季節でもあるのです。毎年悲惨な交通事故のペットが急患で飛び込んで来ます。特に自由に歩き回れる猫がほとんどです。かと言って猫をつないで飼うのは到底無理ですし、外に出る習慣のある猫をいまさら家に閉じ込めておくのもストレスになりかねません。近年の交通量増加も原因のひとつです。閑静な住宅街でさえスピードを出して往来している車を見かけます。いつもこの時期になると何か良い対策はないものかと考えてはいるのですがいまだ解決策は見つかりません。



ルナちゃん ポメラニアン

先日6ヶ月のパピヨン犬と飼い主さんが来院されました。目的は耳掃除と爪切りでした。処置をすませそれからちょっと立ち話。「先生、この子まだトイレをおぼえないんです。」とのこと、「根気強くしつけてください。」とアドバイス。それからまたいつものように以前飼っていたポメラニアンとの比較。「前のワンちゃんは本当におりこうさんだったのに。」と、決して今のワンちゃんをかわいがっていないわけではないのだが、まだまだ前のワンちゃんへの思い入れが強いのだろう。いつかきっと時が解決してくれるはず、いつものように。

ペットの役割と効果

動物たちの果たす役割は近年とても大きなものになってきています。特別な訓練を受け人間を助ける大変重要な役割を果たしている動物がいます。その代表格が盲導犬です。また警察犬、聴導犬、介助犬もそうです。

盲導犬などのように役割がはっきりした動物がいるのに対して、私たちが特別な役割を期待せずいっしょに生活している動物がいます。そういった動物を一般に**ペット**と呼んでいます。最近では**コンパニオンアニマル**と言う呼びかたもしています。家族、仲間といった感じの意味を含んでいるのでしょうか。

人間にとってペットは一番身近な自然として、現代的で都会的な生活をする人たちに精神的、肉体的やすらぎを与えてくれます。ペットもしっかり役割をはたしています。その役割と効果は計り知れないものがあります。たとえば、

人の健康を促進する。

動物に触るだけで精神安定作用、血圧降下作用がある。

コミュニケーションを活発にする。

家族間、隣人との間で動物の話題が会話を促す。

治療の手助け。

アニマルセラピーとして直接患者さんと動物が関わる。

子供の発達や成長を促す。

思いやりの気持ちや命の大切さを学べる。



などなど・・・

今月のトピック

春が近づくこの時期、避妊・去勢手術についての問い合わせが多くなります。その内容は費用のこと・手術にかかる時間のこと・性格が変わらないか・効果は、とさまざま。気になるのは当然です。そこで今回のレポートは犬・猫の避妊・去勢手術の効果についてお話します。

私たちは雌の場合の手術を避妊、雄の場合の手術を去勢と呼んで区別しています。効果は避妊と去勢でそれぞれあり、また健康面や行動・性格面でもそれぞれです。その効果については皆さんにお配りしている**ベビイ春号の29ページ**に分かり易く詳しく記載されています。どうぞ早いうちにご参照ください。

さて、ここでは効果のほかに問い合わせが多かった費用についてお答えします。費用は現在当院では雌猫避妊が20,000円、雄猫去勢が10,000円です。犬に関しては種類によって体重が大きく違いますので一律ではありません。体重10kgまでの犬では雌避妊が25,000円、雄去勢が15,000円です。体重が増加するにしたがって費用も割増になります。たとえば最近良く見かけるゴールデン・レトリバーだと体重30kgほど、そうすると雌避妊で40,000円、雄去勢で25,000円です。大型犬を飼っていくには経済的負担も大変です。食費だって毎月相当な負担だと思います。

避妊は一泊します。去勢は日帰りです。ただし妊娠していたり、その他病気治療がある場合は費用割増しが考えられます。ご相談ください。ご説明いたします。

編集後記最近避妊・去勢の手術を毎日のようにやっています。昼の1時から4時までの間にです。午前中の外来を12時までに終わらせ昼食をばたばたと食べ、時には午前中の外来が12時で終わらず昼食も食べずにやっています。ある飼い主さんに「午後の外来受付は4時からです。」とスタッフが説明したそうです。すると「4時まで休みですか昼寝がゆっくりできていいですね。」とのこと。私も昼寝したいな。

ニャンでも相談室

ある日、「新しい猫の家族が増えました。」とあって来院された飼い主さんから質問をいただきました。「この仔猫が来て以来、前からいた猫がなんだか元気がないような気がするんです。食事もし少し残すようになったし。何か病気でしょうか。」といった内容でした。

私は「まず考えられることは本当に病気なのかもしれません。」と答えました。しかし、新しい猫が来た。という環境の変化が原因だろうと思っていましたので新しい猫が来てからの二匹の猫の飼い方を尋ねてみました。まず食事の与え方です。「仔猫なのでまだ缶詰を一日3回あげています。今までの猫ちゃんはいつもと同じカリカリ(ドライフード)をいつでも食べられるように置いてあります。」次にトイレの使い方を聞いてみました。「仔猫は時々まだそうをしますがだんだんトイレにするようになりました。」「トイレは別々ですか。」「いいえ、いっしょですよ。」「・・・」

「元気がなくなった原因判りましたよ。」多分、新しい猫ちゃんにヤキモチを焼いているのだと思います。飼い主さんの関心が仔猫ばかりに向けられているからそれがストレスになっているんですよ。対策はまず食事の与え方を仔猫と同じにし、トイレは別々にしてください。それとやはりもうすこし前の猫ちゃんもかまってあげてください。だっこするとか、体をなげなげするとか一日に数回してあげてください・・・。

「えー、猫がヤキモチですかー。」と飼い主さんは笑っていましたが。うまくいきますよ。